

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2014/06 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆使いこなそう「平成26年度版 進路のしおり」◆

毎年発行している進路のしおりですが、本年度版が完成しました。進路に関する多くのことが盛り込まれている冊子です。今年度版は、進路指導部の近藤先生が第1部ガイダンス編の「職業から進路を考える」の内容を全面改定してくれました。是非使ってください。

さて、まだ進路を明確にしていない人が、「目を閉じてじっくり考えればある日突然、自分の進路について悟りをひらく」などということは、絶対にありえません。進路（自分の進む路）は、「読む・書く・聞く・触れる・体験する・話す・調べる」などの諸活動を通して見えてくるものです。そのような自分の活動を通して、「考える」ということが大切です。諸活動の中で「進路のしおり」は「読む・調べる」などに使えるのは言うまでもありません。しかし、先輩方の中には、このしおりの内容で不明な点について、担任の教員と「話し」たり、合格体験記を読んで、看護体験に参加することを決めて「体験し」たりと、自分の考えるための「土台」となる、「諸活動」に行動を広げた人もいます。また、「進路のしおり」の合格体験記を全て読み、成功する人は一体どういう思考や習慣があるのかを真剣に分析し、忘れないためにメモし、勉強机に貼っていた人もいました。自分の未来は自分の力で切り開くものですよ。

ただし、誤解がないように言っておきますが、部活動などの活動を単にやっていたら、進路が見えてくるのかというと、そうではありません。他者とのかかわりの中で、「自分は何がしたいんだろう」とか「自分にはどんなものが向いているのか」などを「考える」ことが大事なのです。

進路を考える時には、次の3つのことを総合的に考えなければなりません、いきなりすべてを考え深めることはできませんので、学年ごとに順次考えていくことになります。

進路を考える時の3つの基本原則

- 〔1〕 職業から考える。 … 1年生が主に考える観点です。
- 〔2〕 興味関心から考える。 … 1・2年生が主に考える観点です。
- 〔3〕 大学から考える。 … 2・3年生が主に考える観点です。

この基本原則に従って、進路のしおりは構成されています。内容と活用のポイントを確認しましょう。

<第1部 ガイダンス編>

第1章 進路を選択する【p7～73】

職業から考える

→

進路選択

←

学問から考える

この章はいろいろな資格や学問の紹介が書かれています。皆さんの進路選択の参考になるよう、図のように進路選択を2つの視点から考えています。先ほど述べられた『進路を考える時の3つの基本原則』の

〔1〕 職業から考える 〔2〕 興味関心から考える
にあたる内容です。

まずは、p8～32までが「職業から進路を考える」に該当します。続いて、p33～73が「学問から進路を考える」ために使える資料です。

大学の学部には医学部や看護学部のように職業に直結するものもあれば、理学部や文学部のように職業選択が多岐にわたるものもあります。

特に、1年生はこれから文理選択が始まります。それに向けても、いろいろな角度から進路選択を考えてみるきっかけになるとと思います。

第2章 大学・短期大学入試について【p75～92】

この章では、大学と短大の違いや、大学入試センター試験のしくみ、国公立2次試験や、私立大学の入学試験さらには推薦入試やAO入試など、大学入試に必要な基礎知識が説明されています。特に湖陵生の多くが受験する大学入試センター試験についてはQ&A方式で詳しく説明されています。

最近の入試は、日程や受験区分、科目選択、配点など、大学ごとに多様になり、しっかりと知識を持っていないと、いざ出願という時になって大変なことになってしまいます。特に、3年生は今年度から大学入試センター試験が一部変更になるため、進路のしおりだけでなく夏以降に発表される、募集要項などもしっかりと読むようにしてください。

第3章 その他の進学を考える【p93～99】

ここでは大学や短大以外の進学である文部科学省所管外学校（防衛大学校や気象大学校などの各種大学校）、専門学校、留学について、そしていろいろな進学形態（大学、看護学校など）がある看護師について説明されています。興味のある人は目を通してください。

第5章 進学するための経済学【p100～103】

「自分の行きたい大学の1年間の授業料はいくらか知っていますか。」

「大学生活で自宅外生は、1ヶ月あたりどのくらいの生活費が必要か知っていますか。」

この章では、学費だけでなく、生活費を含めて進学後どのくらいの費用がかかるかが説明されています。どうしても進学となるとお金がかかってしまいます。一度、保護者の方と一緒に見てみてはどうでしょうか。また、あわせて進学の負担軽減として奨学金制度の説明もなされています。

第6章 就職・公務員を考える【p104～109】

この章は就職・公務員を希望している生徒に向けたページです。就職までの流れ、公務員の職種などが記載されています。公務員には、国家公務員、北海道職員、市町村職員などの採用先が異なるだけでなく、行政や税務、警察官などいろいろな職種があります。また就職試験に「申し合わせ事項」という大切なルールがあります。希望する人はガイダンスもありますが、一度内容を確認しておいてください。

第7章 学力試験以外の選抜方法と対策【p110～128】

ここでは、最近増えてきている、小論文や総合問題、面接試験など、いわゆる学力試験以外の選抜方法について、具体例をあげながら説明されています。面接の質問例なども挙げられているので、3年生になり、面接が必要となったときに対策用としても活用できます。

面接試験や小論文試験は、志望先の教科的知識や国語力だけではなく、社会的な知識や関心、事象を見て、考える力が必要となります。普段から新聞や雑誌、書籍などで、自分で調べて考える力を養ってください。

第8章 入試用語の基礎知識【p129～131】

ここでは主に大学入試で用いられている用語の説明が記載されています。わからない用語があったときに開いてみてください。

第9章 模擬試験について【p131～132】

3年生の皆さんは、既に大学入試に向けた模試が始まっており、受験した生徒も多いかと思います。また、秋になれば毎週のように模試が行われます。

志望校合格を決めた先輩方の多くが「模擬試験を大切にした」を言っています。皆さんは、これから多くの模擬試験や学力テストを受験することになると思いますが、先輩方の言う、「なぜ模擬試験が重要なのか」、そして「それをどのように活用したか」がこの章に説明されています。ぜひ一度目を通してみてください。

<第2部 資料編>【p1～27】

ここには先輩方の結果である、進路先や大学入試センター試験の結果がまとめられています。また合わせて、昨年度の指定校推薦の一覧が掲載されています。参考にしてみてください。

<第3部 合格体験記>【p1～38】

「3年間勉強してきて、各科目別に私が思ったことと、特に医学部医学科志望の人に向けて伝えたいことを書いていきたいと思います。」

「私が合格体験記を書くなんで、3年前には夢にも思っていませんでしたが、芸術系の大学を目指す少数派の方々のために、少しアドバイスをしたいと思います。」

「模試の成績もE判定やD判定しかとったことのない私もなんとか合格することができたので、少しでも役立つことを書ければと思います。」

「僕は（国公立大を）後期日程で合格したので、後期試験についてもふれておきます。」

「皆さんが大学受験を突破するためのヒントになってくれればうれしいです。」

このように、さまざまな角度からアドバイスをしてくれているのが、この「合格体験記」です。先輩達の強い思いをくみ取ることができますね。

この「合格体験記」は毎年、この進路のしおりを読んだ在校生から好評です。ぜひ、今年分にも目を通してください。これが好評である理由としては、先輩方が後輩のことを考え、熱心に書いてくれているからなのですが、もう一つあると思います。それは「ナマの声」だからではないでしょうか。依頼する教員が「こういうことを書け（書くな）」などと制限を加えていないことが特徴です。字数にすら制限を加えていないのです。きちんと合格した人は、つまらない制限を加えなくても、後輩達に必要なことは書いてくれますし、必要ないことは書きません。卒業生への信頼があるからこそできることだと思います。

先輩たちが志望校合格に向けて、どんなことを思い、考え、そしてどんな取り組みをしたかが、先輩たちの言葉によって書かれています。必ず皆さんのこれからの学校生活の参考になると思います。

★看護ガイダンスの感想文を読みました

先日の「看護ガイダンス」の感想文に一部目を通しました。各学年の生徒とも、しっかりと話を聞き、人ごとではなく、自分のこととしてとらえてくれたのだなと嬉しくなりました。各学年ごとに注目した点が違い、それがつまり成長なのだと感じました。3年生は、自分これから入ろうとしている道だけに、鋭い指摘をしている生徒もおり、さすがですね。同じ話を聞いて自分以外の人は何を考え、感じたのかを確認するのは、大切です。ガイダンス参加者は、確認してくれましたか。

感想文は返却後きちんと保存しておきましょう。志望理由書や面接練習をしていくときに、今までの自分がどんな考えをたどり、どんな経験をしてきたかを振り返られるようにしておく、役立つものです。